

慣用句シリーズ

ここでは毎月、覚えておきたい慣用句・ことわざを取り上げます。みなさんはどのくらい知っていますか？

慣用句

『手に汗をにぎる』

意味: どうなることかとハラハラすること。

ひとこと: 類義語として“息を呑む”“かたずをのむ”がある。

使い方: 熱戦に手に汗をにぎって応援した。

『手に余る』

意味: 自分の力では、どうにもならないこと。

ひとこと: 類義語として“手に負えない”がある。

使い方: この部屋は広いので、一人で掃除するには手に余る。

ことわざ

『せいては事をしそんじる』

意味: 何事もあせってやると失敗しりから、慎重にやりなさいという意味。

ひとこと: 類義語として“急がば回れ”“短気は損気(そんき)”がある。

使い方: せいては事を仕損じると言うでしょ、じっくりやりなさい。

『船頭(せんどう)多くして船山(ふねやま)に登る』

意味: 指図(さしず)する人が多すぎると、まとまりがつかず、事がうまく進まないということ。

ひとこと: “船山に登る”は、船がとんでもない方向に進むということ。

使い方: 船頭多くして船山に登るで、意見が多すぎてまとまらなかった。